山口市文学碑巡り No.3（五重塔庭園）

山口市民に親しまれてきた五重塔の下に**司馬遼太郎**の碑があります。**「（長州は、いい塔をもっている）と惚れぼれするおもいであった。云々・・・」**と**街道をゆく㈠長州路より**の文章が刻まれています。前夜湯田松田屋ホテルに泊まり、翌日この塔を訪れて感慨を述べたものです。司馬遼太郎の碑から一段下がった所に**若山牧水の歌碑**が建っています。**“はつ夏の山のなかなる　古寺の古塔のもとに　立てる旅人”**と彼の妻の筆跡で彫られた歌碑で、明治40年6月牧水21歳の時に東京から宮崎への帰省中に読んだものと説明にあります。もう一首「海の声」という彼の歌集の中で五重塔を**“山静けし　山のなかなる　古寺の　古りし塔見て　胸仄に鳴る”**とも詠んでいます。またさらに一基、自然石の歌碑があります。**友廣保一**の**“在り慣れて　散歩のところ　池の辺の　五重塔に　心はよりて”**と詠んだ歌です。嘗て米屋町商店街の西端で**第三書房**という古書店を営み山口短歌会会長を勤めていた人物で、後に彼の後任に就いた人が**我が母校の山中鉄三先生**でした。

司馬遼太郎の碑

若山牧水歌碑

友廣保一歌碑

（76期　厚東一生）